

チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会

日 程：2024年8月22日（木曜日）

場 所：千葉県庁 南庁舎5階 共用会議室Ⅱ

出席者：チーバくんグローバルパートナーズ9名、千葉県国際交流センター職員3名、
千葉県職員7名

意見交換会 次第

1. 課長挨拶
2. 自己紹介
3. 意見交換会

「日本の地域社会での交流について」

(1) 日本に来たばかりの時に、困ったことはありましたか。

また、どんな支援や機会があればよかったですか。

(2) これまで、どのような活動に参加しましたか。

また、日本人との交流の中で難しいと感じたことや、工夫したことはありますか。

(3) 外国人がもっと日本の地域社会と交流するためには何が必要だと思いますか。

(外国人が取り組むこと/行政が取り組むこと2つの視点から)

「千葉県多文化共生推進プランの改訂について」

・千葉県外国人活躍・多文化共生推進プランの骨子案概要について、どう思いますか。

意見交換会 意見概要

1 「日本の地域社会での交流について」

(1) 日本に来たばかりの時に、困ったことはあったか。

また、どんな支援や機会があればよかったと思うか。

<日本に来たばかりの時に困ったこと>

- ・学校の制度が母国と違ったこと。母国で小学校を卒業したにも関わらず、日本語ができなかったため、日本の中学校は難しいだろうと判断され、小学6年生をもう一度やることになった。それまで同級生だった周りの人たちが急に先輩になり、言葉使いなどにも戸惑った。
- ・アルバイトを探すのに苦労した。

- ・税金や保険、年金などの制度が分からないこと。日本人に聞いても分からない。
- ・来日したのは昭和時代で、困ることばかりだった。公共交通機関の車内アナウンスが日本語のみで困った。最近は何てすばらしい時代なんだと思う。
- ・昔銭湯に行った時に間違えて女性側に入ってしまったことがあり、周りの人に止められて慌てて戻ったという経験がある。今は英語表記があるが、当時は日本語表記のみだったため判別できず、とても恥ずかしい思いをした。
- ・友達作りが大変だった。
- ・家庭内では母国語、外では日本語で話しており、その影響で子供は語彙が十分ではない。外で友達と遊びたくても、言葉がうまく伝わらずケンカしたことがあった。
- ・日本では海外と異なり、小さいころからピアスをする習慣がないということを知らず、子供にピアスを開けたら、学校から電話がかかってきて穴をつぶすよう言われたことがあった。
- ・両親のルーツが異なる人が苦勞しているように感じる。
- ・漢字が難しい。道を歩いているだけでも漢字だらけで読めず、どんな店かわからないことがあった。
- ・情報収集の仕方が分からなかった。周りの外国出身の友達などを見ると、今は公式ホームページよりも外国人インフルエンサーのコンテンツなどをよく見て情報収集していると思う。

<あれば良かったと思う支援や機会>

- ・学校に通っていた時に、通訳サービスや日本の学校制度についての説明があれば良かったと思う。そのうえで進学等について本人ともきちんと相談することが必要だったのではないかと思う。
- ・税金や保険、年金などの制度について英語やインドネシア語で詳しく分かるものがあると良い。
⇒ (他のパートナーズから) 年金制度について詳しく書いてあるものが日本年金機構のホームページに多言語で掲載されている。
- ・先生から他の同級生に、海外の文化や習慣について話したり教えたりすると良いと思う。
- ・カメラで撮って漢字の読み方等を調べられるアプリなどがあれば良いと思う。

(2) これまで、どのような活動に参加したか。

また、日本人との交流の中で難しいと感じたことや、工夫したことはあるか。

<参加した活動>

- ・日本語学校で日本人の高校生と一緒にイベントを実施したことがある。
- ・国際交流イベントによく出演する。
- ・千葉県国際交流センターや市の国際交流協会でボランティア会員として活動している。
- ・多文化共生出前講座で子どもたちに母国を紹介した。
- ・住んでいる地域は小さい市町村で、日本語教室がなかったため自分が作った。
- ・地域の観光まちづくり協会に移住・定住に関する相談を受けており、外国人からの相談も受けている。地域に在住する外国人の家庭訪問も行っている。

<日本人との交流の中で難しいと感じたことや、工夫したこと>

- ・物事の進め方や、コミュニケーションに対する考え方が違うと思う。イベントの準備をしていた時、先生に指示されたやり方よりも効率の良い方法が見つければそちらで良いと思い、やり方を変えて進めていたら先生に怒られたことがある。自分としては、順番通りにやらなくても結果は同じだと思う。
- ・若い人とのコミュニケーションを取るのが難しかった。マッチングアプリのおかげで日本語が上達した。日本語を教えて貰ったり、食事を一緒にしたりして交流が生まれた。外国人と日本人の交流会などがあれば、日本の文化や習慣が学べる良い機会になると思うし、外国人と日本人が仲良くなれると思う。
- ・日本人とは仕事での交流がメインで近所との付き合いもそれなりにあるが、文化がやはり違うと感じる。日本人はそれぞれ交友関係の枠を持っており、その範囲を把握するのが難しい。日本人は相手を傷つけないという気持ちが強く、嫌なことははっきり言わないのでそれにより誤解が生じてしまうことがある。知らないうちに相手を嫌な気持ちにさせてしまうことがあるので、外国人としてきちんと理解しないとイケないなと思っている。
- ・スーパーで知り合いの日本人に会った時に嬉しくて話しかけていたが、快く思われなかった経験がある。それ以降は、軽い挨拶だけで済ませるようにしている。
- ・飲食店などで列に並ぶ際、自分がスペースを広く開けて並んでいたために日本人に割り込まれた経験がある。母国ではみんな広いスペースを取るが、日本はそうではない。

(3) 外国人がもっと日本の地域社会と交流するためには何が必要だと思うか。

(外国人が取り組むこと/行政が取り組むこと2つの視点から)

<外国人が取り組むこと>

- ・今後、授業としてではなく、日本語を話せる外国人を集めて日本語で会話をするサークルを作りたいと思っている。
- ・住んでいる地域では外国人同士でコミュニティができてしまっており、日本人が来ると警戒する。それを壊したいと思っており、何とかコミュニケーションを取りたいと思っている。地域イベントに外国人も参加するなど、外国人に地域社会に参加してもらえるようになる方が良い。何らかの形で外国人同士の枠を壊せると良い。

<行政が取り組むこと>

- ・日本語教育。例えば葛飾地域等エリアごとなど、在住市以外でも日本語教室を受講できるようにしてほしい。市町村の枠を超えて地域ぐるみでやれば、外国人同士も仲良くなれると思う。
- ・その地域に集住している国籍の外国人向けにセミナーを開催できると良い。そこに住んでいる外国人が参加することで、自分たちが聞きたいこともその場で聞くことができる。知識がなく、情報不足であるためにルールを知らない外国人がいる。国籍によって抱える問題は異なる。
- ・大きい市町村でも当てはまるかは分からないが、日本の地域社会に入れない外国人が増えてくると思う。家族滞在の外国人で、日本語も英語もできない人が増えている。また、漢字圏と漢字圏以外の子供での差が出てくる。特に、義務教育の段階で漢字まで理解して、高校まで進学することは至難の業である。
- ・国民健康保険制度を詳しく知らない外国人がいるのではないかと。我々がそういった相談に応じているケースもある。地域社会で交流する以前の課題だと思う。

2 「千葉県多文化共生推進プランの改訂について」

(千葉県多文化共生推進プランの改訂に向けて、国際課から改訂骨子案の概要を説明し、それに対する意見をもらった)

<千葉県外国人活躍・多文化共生推進プラン骨子案の概要>

・施策目標Ⅰ：活躍

一人ひとりが様々な違いのある個人として尊重され、その人らしく活躍できる県づくり

→「働き手としての活躍」と「地域の担い手としての活躍」に関する取組を行う

・施策目標Ⅱ：共生

国籍及び文化的背景などにかかわらず、共に安心して暮らせる県づくり

→「コミュニケーション支援」、「子どもの教育環境の整備」、「防災・防犯・交通安全対策の推進」、「住宅・医療・保健・福祉の充実」に関する取組を行う

・施策目標Ⅲ：連携

様々な主体の連携により、活躍・共生を推進する県づくり

→市町村やNPO、大学等との連携・協働を進める

<骨子案への意見>

○施策目標Ⅰ

- ・「食から仲間繋がる」という考えから、県内の飲食店に外国のメニューを増やすと良いと思う。外国人からしても嬉しいし、日本人にも外国の料理を食べて知ってもらい、そこから興味を持ってもらうことができ、交流が生まれると思う。

○施策目標Ⅱ

「コミュニケーション支援」について

- ・最近、外国人の悪い事件に関する内容がテレビで放映されており、日本人から悪いイメージを抱かれていると思う。そんな中で、優秀な高度人材の外国人が出演する番組などがあれば、「こんなに頑張っている外国人がいるんだ」と思ってもらえることができ、日本人の外国人に対する理解、イメージアップにつながると思う。
- ・①言語の壁と②文化の壁の2つの壁があると思う。文化の壁をこえるためには、言語の壁をこえないと難しいと思う。地域日本語教育の充実と「やさしい日本語」の普及は既に打ち出されているので、ここを一番重点的に取り組んでほしい。外国人向けには日本語教室、また、日本人向けとして、県内自治体の窓口で外国人対応を行う職員向けにやさしい日本語講座を実施してほしい。

「防災・防犯・交通安全対策の推進について」

- ・事前準備が大事で、災害前にどれだけ準備するかというところと、それをどこに共有するかというところだと思う。自治体ホームページにおいて、外国人に分かりやすい場所に防災・防犯情報を配置すると良いと思う。

○施策目標Ⅲ

- ・日本人が通う高校や大学と、外国人が通う日本語学校での交流イベントを作っていけばどんどんコミュニケーションが取れると思う。更に、そこに参加した外国人に SNS で発信をしてもらえれば、友達を呼んだり他の外国人にも認知してもらったりすることができ、県のアピールにもつながる。

○その他

- ・既に組み込まれているかわからないが、以前、雇用契約のトラブルの経験があった。その当時相談できる場所が見つからなかった。そういった際に相談できる場所があれば良いと思う。
⇒（千葉県国際交流センター）外国人相談窓口で常時相談に乗っている。100%の解決につながるとは限らないが、内容に応じて他の窓口への案内などを行っているのでご利用いただければと思う。
- ・概要資料はとても大切。PDF だけでなくテキスト形式でも提供があるとコピー&ペーストですぐに翻訳機にかけることができるので助かる。
- ・外国人が日本に来た時、同じ国の人同士で固まるのがほとんど。浅く交流はするが、同じ国の仲間として緊密に交流できているわけではない。公的機関からイベントを提供し、そのイベントで日本人と外国人が協働するのが良いと思う。そのうえで、参加してもらえるように町内会で「来週、外国人の方と交流しませんか？」といったように軽く呼びかける。そうするとすぐに友達になれると思う。上からの指示などではなく、普通の県民として交流するのが良いと思う。
- ・情報提供だけでなく、実際に自分の手で触りながら経験することも大事。例えば、外国人と日本人に同じ部屋で料理を教える教室など。
- ・日本語が苦手な外国人と外国人のことを知りたい日本人と一緒に日本の歴史的なスポットなどを回ることができるバスツアーなど、イベントの実施も良いと思う。

- ・外国人と地域の高齢者などが参加する会話カフェは、外国人が日本語や日本のことを学ぶことができるし、日本人も外国のことを知ることができるので良い。
- ・外国人は自分の住んでいる地域の自治会に入るのが一番良いと思う。顔も覚えてもらえる。

3 その他

(1) 災害時外国人サポーター養成講座について紹介（国際課）

（国際課から、令和6年度災害時外国人サポーター養成講座について資料により説明。）

(2) 災害時語学ボランティアについて紹介（千葉県国際交流センター）

（千葉県国際交流センターから、災害時の語学ボランティアについて資料により説明。）

【第1回 チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会の様子】

